

※令和7年度 自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31日)による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		①状況説明 ②課題及び今後の改善方策 ③特記事項(優良な取組等)	委員評価	学校関係者評価委員 の御意見
			3: 基準を満たしている 2: 概ね基準を満たしている 1:改善が必要	エビデンス等		3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たしている 1:改善が必要	
1 教育理念・目的・目標	1 教育理念、目的及び目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	・学則、規程、内規等 ・ホームページ ・学生便覧等 ・学科ごとに3つのポリシー等の記載がされているもの (入学案内、募集要項、等)	①状況説明 【教育理念】 本校を含め、本法人の設置する専門学校では「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションを掲げ、3つの教育理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を建学の理念として、それらを具現化し、その取り組みを通して「出身校」「保護者」「産業界」「地域」からの信頼(4つの信頼)を得ることと定めている。 これらは学則に明記し、学生便覧や入学案内、ホームページにも分かりやすい表現で明確にしている。 【養成する人材像】 本校は通学課程で3学科設置しているが、2018年開校でコロナ禍の影響を受け、まだ職業実践専門課程の申請をしていない。しかし、各学科では看護師や介護福祉士、柔道整復師と国の指定養成施設として教育課程を編成し、その履修を行なっている。 教育理念同様に、学生便覧やホームページ等に3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)も掲載している。 ② 課題及び今後の改善方策 各専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合するよう、教員の実習巡回やキャリアセンター職員の業界訪問、また法人主催の毎年大阪で開催される就職フェアへの参加・協力等を通じて業界連携を図っている。教育課程編成委員会も年2回開催し、各委員の意見等も踏まえ、ニーズに応じる人材育成を目指している。 しかしながら、慢性的な福祉分野の人材不足や教育DX、医療DX、医師のタスクシフト・シェアによる医療業界の変化等の人材ニーズに対してはまだまだ対応出来ていない。今後も引き続き、日々の渉外活動や委員会等で業界から情報収集を行い、より業界のニーズに適合できる人材を養成していきたい。 ③ 特記事項(優良な取組等) 教育活動はコロナ禍で培ったオンライン教育手法も活用し、対面型とオンライン併用のハイブリッド型を使い分けして取り組んでいる。 また日々の教育課程の履修だけでなく、入学前教育や多職種連携授業、海外研修プログラム、就職フェア、業界ガイダンス・セミナー等、特色ある教育プログラムにも取り組んでいる。 海外研修プログラムについては、昨年度に引き続き、渡航せずに国内代替プログラムとして、講義と現地と学内を繋いだオンラインでの講義とを併用したハイブリッド型で実施した。大阪で開催される法人主催の就職フェアには感染症対策を十分に施して、昨年度同様に柔道整復スポーツトレーナー学科の学生が参加した。 特別講義や国家試験対策については、今後も対面型とオンライン型を活用した取り組みを企画・運営し、より教育効果が現れるよう取り組んでいきたい。	③・2・1	・パンフレットをはじめオープンキャンパスでの説明もわかりやすく、開かれた学校というイメージを持つことができ、好感がもてる。 ・SNSで行事や授業の様子を発信しているので、保護者も様子が分かり、安心できる。 ・専門性に関する説明が十分になされていると感じる。 ・法人全体として連携と協働体制ができていると評価できる。

※令和7年度 自己点検自己評価（令和7年4月1日～令和8年3月31日）による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		委員評価	学校関係者評価委員の御意見
			3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たしている 1:改善が必要	エビデンス等		
2 教育課程、 教育の実施、 学修成果	1 教育課程の編成と授業科目	①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	3	・学則（別表） ・学生便覧 ・シラバス ・カリキュラムポリシー ・ホームページ ・教育課程変更承認申請書 ・教務会議（議事録） ・教育課程編成委員会議事録	③2・1	
		②外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	・ホームページ ・介護福祉学科の資料		
	2 教育の実施	①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	・学則（別表） ・履修規程 ・シラバス ・指定規則、ガイドライン（講義概要）		
		②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注】職業実践専門課程】	3	・学則（別表） ・履修規程 ・シラバス ・指定規則、ガイドライン		
	3 単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	3	・学則 ・履修規程 ・シラバス ・ディプロマポリシー ・会議規程（卒業判定会議） ・卒業判定会議議事録		
	4 学修成果目標の達成状況	①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	3	・学生便覧 ・学科ミッション ・学科のディプロマポリシー ・指定規則 ・資格検定取得状況（国家試験結果、合格率） ・修学支援新制度（確認申請書）		
		②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	3	・学生便覧 ・学科ミッション ・指定規則 ・就職ガイダンス資料 ・就職活動報告書 ・学科長会議議事録 ・就職データ（就職・進学結果）		

※令和7年度 自己点検自己評価（令和7年4月1日～令和8年3月31日）による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		①状況説明 ②課題及び今後の改善方策 ③特記事項(優良な取組等)	委 員 評 価	学校関係者評価委員 の御意見
			3: 基準を満たしている 2: 概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	エビデンス等		3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	
3 学 生 の 受 入 れ 学 生 支 援	1 学生募集及び入学者 の選抜、収容定員の管 理	①入学者の受け入れ方針、入学選考基 準、方法を定め、入学希望者に明示し、入 学者の選考を公正に行い、可否を決定し ていること。 ②学生の受入れは、入学定員に基づき適 正に行っていること。 【注】修学支援新制度機関要件の確認 【注】外国人留学生キャリア形成促進プロ グラム】	3	・学則 ・入学試験規程 ・募集要項 ・ホームページ ・入試判定会議資料 ・修学支援新制度 確認申請書	①状況説明 入学者の受け入れ方針はアドミッションポリシーとして募集要項やホームページに明記しており、入学選考 基準や選考方法については各法令やルールを遵守し、学則並びに「入学試験に関する規程」に則り、入学選 考の可否に関しては会議規程にある入学試験判定会議を開催し、選考基準に基づいて可否の決定を行うよ うにしている。 学生の学力や学習状況については、入試時に提出する高等学校の調査書や入学前教育の課題の消化状 況からそのレベルを把握し、日常においても個別に学習支援が行なえるようクラス担任が定期的に面談を行 なっている。通信課程においては、学生が現役の准看護師ということもあり、学習の手引きを活用し、個別に 対応も出来るようにしている。 学科の特性もあるが、入学してくる者は高校新卒者だけでなく、既卒・社会人など多様であるため、学科内 はもちろん、教務全体として大阪の学生サポートセンター（以下、SSC）とも連携して支援を行っている。特に 今後は留学生を受け入れる介護福祉学科においては入学後の在籍管理をしっかりと行い、個別のフォロー もできるよう、10年前から留学生を受け入れている姉妹校の介護福祉科と連携している。	③・2・1	・看護師養成校への入学生は全国的に 減少傾向にあるが、充足に向けてご尽力 いただきたい。 ・今後さらなる募集活動の強化に期待し ている。 ・学生生活に関する支援については充実 していると感じる。この環境が今後も継続 されることを期待している。 ・留学生への対応を含め、定員充足率 100%を目指して努力が必要である。
	2 自主的な学習の促進 に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前 教育や補習授業を行うなど学習支援に取 組んでいること。学生の円滑な学習に向 け、シラバスの活用による学習成果の向 上や自主的な学習に関する適切な支援を 行っていること。	3	・学則 ・入学試験規程 ・募集要項 ・ホームページ ・入試判定会議資料 ・学校基本調査 ・修学支援新制度 確認申請書	学生相談室について、入学前の学校説明会から保護者を含め告知し、入学後の各学科のオリエンテーショ ン時に相談室の利用方法と相談内容を示している。精神的な問題を抱える学生でもスムーズに学生面談で できるようにしているが、学生数が少ないためそこまで活用はされていない。 退学希望者や原級留置者は担任や学科責任者が面談をし、そのサポート体制やサポートスケジュールを 明確にし、彼らが抱える問題・課題解決を本人とともに図っている。 学校保健計画については、法人が提携する「(医)慶生会」と定期的な会議を行ない、学生や教職員の健康 診断の内容や日程をまとめ、また毎月開催する安全衛生委員会で休養室を含む校舎内の巡回も行なってい る。 経済的な課題を抱える保護者や学生については、入学前の学校説明会時から修学支援新制度や病院・施 設奨学金制度、学費の分納に関する説明や周知を行ない、必要があれば対応出来るようにしている。 卒業後の進路は就職であれ、進学であれ教務部とキャリアセンターで連携して支援を行っており、日常の 学びはもちろん、学外実習やボランティアを通して学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力 や態度を身に付けられるようにしている。		
	3 多様な学生に対する 支援	①適切な体制を構築し、障がいのある学 生、海外からの留学生、社会人経験者な ど、多様な学生に対する支援を行ってい ること。 ②特に海外からの留学生について適正な 在籍管理、進路(就職)指導を行うととも に、日本人学生との交流の機会が確保さ れていること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プロ グラム】	3	・募集要項 ・学校案内 ・ホームページ(留学生向け) ・留学生の在籍管理資料 ・SSC関連資料	②課題及び今後の改善方策 課題として最優先で解決すべき点は、全学科で入学定員を充足することが出来ておらず、 収容定員充足率も下がっていることが挙げられる。収容定員充足率は修学支援新制度の機 関要件にも関わることで、入学定員をしっかりと確保できるよう、オンライン型と対面型を併 用したハイブリッドでの募集活動を積極的に行うとともに、次年度の学生募集については、 SNSを活用し、個々人のニーズに対応できる丁寧な情報提供を進めていく。 留学生の受け入れについては、社会情勢から今後介護福祉学科で始まるので、入学前 の学力把握、入学後の在籍管理と施設と連携した就職指導を見直して「受け入れ計画」を策定 する。 多くの学生が活用している修学支援新制度においては、今年度(令和7年度)より多子世帯 の授業料等減免の所得制限撤廃が開始されるなどの制度変更があり、事務手続きも煩雑化 しているので、学生に不利益が生じないように丁寧にに取り組んでいく。 就職指導の一環として、毎年5月に保護者就職説明会を実施しているが、参加する保護者 が年々減少している。学生本人、ご家庭、本校とが一体となって推し進めることが重要である ため、次年度の保護者会については開催内容を十分に検討し、改善を図る。		
		②留学生、退学希望者など学習の継続に 困難な問題を抱える学生に対し適切な対 応を行っていること。	3	・留学生の在籍管理資料 ・日本語サポート体制			
	4 学生生活に関する支 援	①カウンセラーの配置、相談室の設置な ど、学生の相談に対応するための環境整 備を行い、適切に運営していること。	3	・SSC関連資料 ・学生便覧 ・オリエンテーション配布資料 ・学生面談記録 ・	③特記事項(優良な取組等) 姉妹校と参考にとすると、留学生は経済的な問題を抱える者がほとんどであるため、美作市 をはじめとした行政の奨学金等は事務局が、施設奨学金を提供してくれる事業所探しやマッ チングはキャリアセンターが窓口となって対応していく必要がある。 学生支援という観点では、退学希望者や原級留置者だけでなく、休学している者や国家試験 不合格となった卒業生への支援も丁寧にしている。休学している者が復学できるよう定期 的な連絡・面談を行っており、また国家試験不合格であった卒業生については翌年の国家 試験には必ず合格できるように、学習計画の立案や外部模試の結果に基づく個別支援など を無料で行なっている。 メンタルケアが必要な学生にとっては、医療機関と連携するとともに大阪のSSC、鳥取のSS Cとも連携して、支援を行っている。		
		②留年者、退学希望者など学習の継続に 困難な問題を抱える学生に対し適切な対 応を行っていること。	3	・学生面談記録 ・会議資料(学科長、教務) ・退学願			
		③学校保健安全法に基づく学校保健計画 を策定し、学生の心身の健康管理体制を 整備し、適切に運用していること。	3	・健康診断記録 ・年間行事予定 ・再検査の案内、記録			
		④学生の経済的側面に対する支援体制を 整備し、適切に周知、運用していること。	3	・学費分納申請書 ・奨学金説明会資料 ・修学支援新制度案内			
		⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する 支援体制を整備し、適切に周知、運用して いること。	3	・学生便覧 ・キャリアセンター資料 ・就職フェア冊子			

※令和7年度 自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31日)による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		①状況説明 ②課題及び今後の改善方策 ③特記事項(優良な取組等)	委員 評 価	学校関係者評価委員 の御意見
			3: 基準を満たしている 2: 概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	エビデンス等		3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	
4 教育 実施 組織 ・ 教員	1 教員の配置、募集、 採用	①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	2	・指定規則 ・指定教員数と現教員数比較	①状況説明 学内では学校長を教育の統括責任者だが、そのサポートにあたる看護系の現場統括者の副学校長が不在のため、学科長と教務副部長が代理を務め、各学科は学科長を中心とした組織の運営体制を敷いている。学科間の連携は、学科長会議・全体会議を通じて組織連携を図っており、非常勤講師との連携については講師会議を開催するなどして協力体制を整えている。 各学科において必要な教員要件については、養成施設の教員要件として以下のように定められている。 ・看護師「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」 第5教員に関する事項 ・介護福祉士「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」 第5条5号～9号 ・柔道整復師「柔道整復師学校養成施設指定規則」 第2条5号～7号 教員数については各法令に基づいて充足するよう取り組んでいるが、全学科で欠員があり、現在も募集を行なっているところである。 教員については入職時に職務経歴や学修歴を確認しており、専門性や教授力の向上のために積極的に研修会や学会には参加するように促している。特に研修はオンラインと対面型の併用ではあるが、本学園グループの、入職歴や役職に応じた各種研修や学会等があるので、研修対象者には積極的に参加するよう促している。 また講師には医療機関や福祉施設、保育園等に勤務する者が多いため、講師会議や講師研修会を通じ、本校の教育に理解を得られるように努めている。	③・2・1	・4-1①および4-2①については継続的な取り組みを期待している。 ・看護学科の実習指導体制を強化し実践能力向上のためにも、実習施設の指導者との密な連携をとっていただきたい。 ・非常勤講師の先生方からは授業内で実際の現場の声などを聞くこともできており、質の高い授業を提供していると感じる。 ・教員の欠員に関して、教育実施組織として充実するようさらなる努力を期待している。教員間の連携体制はできているように感じる。 ・どの養成校でも入学前と入学後のギャップからドロップアウトする学生がいることが課題であると感じている。この学校では同様のケースが少ないことから、学生からの相談対応のきめ細かさや入学前説明は評価できる。
		②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	・教員名簿 ・組織図 ・業務分担表 ・学校基本調査 ・教員の資格書 ・非常勤講師履歴書 ・授業アンケート			
	2 教員の組織編制等	①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2	・教員名簿(学科別) ・業務分担表 ・学科長会議資料、議事録 ・学科会議議事録 ・講師会議資料			
		②教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	・業務分担表 ・学科長会議資料、議事録 ・各種委員会議事録 ・教務日誌			
	3 教員の資質の向上	①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	・教員研修資料(JESC)			
		①-2特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。【注】職業実践専門課程】	3	・教員研修資料(JESC) ・法人会員一覧 ・業界ガイダンスセミナー資料 ・実習契約書			
		③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注】職業実践専門課程】	3	・教員研修資料(JESC)			

※令和7年度 自己点検自己評価（令和7年4月1日～令和8年3月31日）による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		①状況説明 ②課題及び今後の改善方策 ③特記事項（優良な取組等）	委員評価	学校関係者評価委員 の御意見
			3: 基準を満たしている 2: 概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	エビデンス等		3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	
5 教育環境	1 教育環境の整備	①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	3	・学科設置認可申請書 ・校舎図面（教室、実習室配置図） ・備品台帳 ・時間割（使用教室明記）	①状況説明 各指定基準や指定規則に明記されている施設・設備・教育用具等は整備しており、専門職として技術を磨くための実習室や機器も完備している。PCルームや図書室も整備しており、学生が休養できるよう学生ホールもあり、学習面だけでなく、生活面でも支援している。 〈一般教室以外の主な実習・演習室〉 PC視聴覚室、図書室、母子看護実習室、看護実習室、在宅看護実習室、基礎医学実習室、運動生理学実習室、手技実習室、介護実習室、入浴実習室、家政・調理実習室、演習室、体育館	③・2・1	・実習室、設備、教材などは整っている。 教育の質の高さを積極的に発信し、魅力ある環境づくりを引き続き期待している。
		②学生の学習支援のための施設（実習室等）を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	3	・校舎図面、教室配置図 ・時間割	場所は学生に分かりやすいように学生便覧に配置図を掲載し、その位置を把握させている。隣接する高等学校の教職員も図書室の使用できるようになっており、自習室として活用する学生もいる。 学校安全計画を策定し、防災マニュアルも教職員には周知徹底している。学生含め、本校関係者全員に防災マニュアルブックを作成し、配布している。 防災訓練は毎年実施するとともに、防災設備の定期検査や緊急連絡網の整備も行なっている。また学生全員に災害時の安否確認手段として、メール登録をさせている。 本校5F建ての校舎のため、校舎管理や防災規程に基づき、各フロアーの責任者を決めて管理体制を整えている。またその検証は安全衛生委員会にて行なっている。		
		③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	3	・校舎図面 ・図書室案内 ・学生便覧			
	2 安全対策、防災組織	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	・学校安全計画 ・危機管理マニュアル ・防災避難訓練実施要項・報告書 ・設備点検報告書	②課題及び今後の改善方策 各実習室において必要な機器・設備の入れ替えや買い替えを計画していても、収支計画の崩れから実行できないことがある。学生募集をしっかりと行い、入学定員を確保し、収支計画が崩れないように取り組みたい。 施設に関しては校舎も10年近くなるため、外壁部分で劣化が激しいところがあったため、修繕は行ったが、校舎内においては大きな問題はなかった。 図書室については年々利用者数が減少している。ネットでの検索や電子書籍などを活用する学生が増え、来室する機会が減少しているので、授業に合った専門書の複数冊配架や参考図書を充実させ、図書室の活用を促したい。 学校安全計画は形骸化している部分もあるので、計画の見直しや学校保健計画と連結した研修などを取り入れていく予定にしている。		
		②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	3	・危機管理マニュアル ・防災・避難訓練実施要項 ・学生便覧			
	3 施設・設備等の点検、改善等	①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	3	・校舎点検表（DUCE、清掃業者） ・安全衛生委員会議事録	③特記事項（優良な取組等） 大阪の姉妹校には「教材研究スタジオ」を設けており、コロナ禍で対面型の授業等が出来ない中、オンラインでの授業や動画の制作などに活用できる場所として設置したものである。グリーンバックで編集技術を利用し、相手（受信側）が見やすいように工夫しており、そこから授業配信等もできるようにしている。 防災については訓練だけでなく、日常の安全管理として「安否確認メール」を学生が受信し、返信することで安全確認が取れるシステムを導入している。毎年6月と9月にテストメールを送信して受信できるかどうかの訓練も行っている。		
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。		3	・事業計画（中長期計画） ・校舎点検表（DUCE、清掃業者） ・介護実習室の工程表				

※令和7年度 自己点検自己評価（令和7年4月1日～令和8年3月31日）による評価

大項目	小項目	評価の基準	点検・評価項目総括		①状況説明 ②課題及び今後の改善方策 ③特記事項(優良な取組等)	委 員 評 価	学校関係者評価委員 の御意見
			3: 基準を満たしている 2: 概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	エビデンス等		3:基準を満たしている 2:概ね基準を満たして いる 1:改善が必要	
6 教育活動の 基盤と改善・ 向上の取組	1 中期事業計画と財務 基盤	①当該専修学校が策定している中長期的 計画に、教育目的、教育目標の実現に向 けた具体的な内容が位置付けられてい ること。	3	・事業計画 ・理事会・評議員会議事録	①状況説明 毎年、当該年度内に次年度以降の事業計画を策定し、年度初めにその概要を会議にて発 表し、教職員への周知徹底を図っている。 組織目的達成のために長期・中期・短期の定性目標と定量目標を定め、会議や研修等を通 じて目標をクリアするという共通の意識を教職員全員に持たせ、各人の行動力の喚起に注力 している。また実際の運営の検証・指導・支援体制も設け、計画遂行の確認、問題点の早期 発見と対策等、業務改善するプロセスも確立している。	③・2・1	
		②当該専修学校の教育活動を安定して遂 行するために必要かつ十分な財務基盤を 確立していること。	3	・資金収支計算書 ・事業活動収支計算書 ・財産目録 ・事業報告書	財務状況については法令に則り、理事会、評議員会が開催され、法人の運営状況を確認、検 証されている。本学園の各校責任者での会議では、法人各校の管理・運営状況を確認し、情 報を共有することであらゆるリスクに関して、迅速な対応ができるようになっている 学内では会議規程に基づき、各会議や委員会にて意思決定を行っているが、重要な決裁 事項については法人常務理事に稟議書にて稟請し、決裁を採っている。個別判断が必要な 場合は事務局次長か教務副部長から学校長に確認を取って意思決定を行っている。		
	2 学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運 営が行われていること(職業教育に関する マネジメント(教育の企画・設計・運営等)に おける責任体制を含む)。	3	・事業計画 ・理事会・評議員会議事録 ・学科長会議議事録	学校評価においては、学校関係者評価委員から頂いたご意見や要望について学内で検討 し、改善できるとことは改善するように取り組んでいる。地域においても、学科が実践するボラ ンティア活動を通して本校の取り組みや姿勢をご理解いただけるよう積極的に関わっている。 産業界や地域社会、関連する教育機関へは法人主催の就職フェアや、ホームページ、実習 を通しての訪問・巡回等で情報公開を図っている。		
	3 学校評価の実施と改 善活動	①学校関係者評価委員会、教育課程編成 委員会等外部からの意見を反映するな ど、関連企業等団体、地域社会等からの 意見を当該専修学校の運営やその改善・ 向上において活用していること。	3	・学校関係者評価委員会議事録 ・教育課程編成委員会議事録 ・自己点検評価報告書	②課題及び今後の改善方策 課題は、入学定員や収容定員の充足率の向上である。学生数＝収入となる学校では安定した健全な学校 運営をするためには一定の学生数を維持しなければならない。入学しても退学や休学する者がおり、原級留 置者も出る。本校として、また法人としても達成目標に上げている、(入学定員の充足)(退学者数の低減) (国家試験合格率100%)(就職内定100%)(学費未納者0名)という5つの数字を常に意識して、その数字達成 のために取り組みたい。 学校評価については学校関係者評価委員の方々のご意見や各業界からのご指摘などを改善材料として必 ずしも大きな変革ではないが、少しでも改善できるところは引き続き取り組んでいく。 社会からの理解や評価となると、在校生への教育実績(国家試験合格率や退学者数など)だけでなく、卒業 生の活躍がその大きな対象になる。各業界の卒業生に対する評価は概ね好評である。今後は職業人教育を 通じて社会に貢献するミッションを推し進めるために、引き続き各種委員会や実習、渉外活動等を通じて、本 校に関わる各ステークホルダー(保護者、業界関係者、学識者等)との意見交換を重ねていきたい。 特に様々な成功事例については、事業所にアンケートを実施するなどしてその事例収集にあたり、在校生や 入学希望者へ情報発信していきたい。 今後はさらに学校を活性化させるためにも、情報公開を含めホームページを活用し、同窓会や業界研修会 等を積極的に開催したい。		
		①-2特に職業実践専門課程においては、 教育課程編成委員会を年2回以上開催し ていること。【注】職業実践専門課程】	3	・教育課程編成委員会議事録			
		②学校評価を実施し結果及び改善状況に ついての情報を公表していること。	2	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価委員会議事録			
		③学校評価の結果に基づく改善への取組 を組織的かつ継続的にやっていること。	2	・学校関係者評価委員会議事録 ・学科長会議議事録			
	4 社会からの理解と情 報の公表	①当該専修学校の教育活動、学修成果、 学校運営等の状況に関する情報を積極的 に公表していること。	3	・ホームページ ・入学案内 ・学園新聞 ・自己点検評価書	③特記事項(優良な取組等) 教育活動や学修成果などをホームページや動画、SNSを活用して積極的に公開している。 特に日々の学校生活の動画は再生回数も多く、本校に興味・関心を持つ者へのアプローチ にもなっている。 地域との連携を大切に考えてる本校には様々なボランティアの依頼がある。学生たちは積極 的に参加できるようにしているが、介護福祉学科では「上山の棚田」での活動を地域の方々と 一緒に運営・サポートを行うなど、学科の取り組みとしても社会貢献・地域貢献活動を行って いる。		
		②教育目的・目標の達成状況や活動状況 について関連する教育機関、産業界等を はじめ、社会全体からの理解を得るよう取 組んでいること。	3	・入学案内 ・学生便覧 ・年間行事予定 ・学園新聞 ・日刊工業新聞取材記事 ・イベント配布資料			